

新春対談

葛飾区長 青木 克徳

将棋棋士 渡辺 明名人

平安時代にその原型がすでにあり、今から約400年前にはルールが確立され、令和の時代まで継承されている「将棋」。日本の伝統文化である将棋の世界で、昨年、最も歴史あるタイトル戦を制した渡辺明名人をお迎えしました。



2020年を振り返る

区長 昨年は新型コロナウイルスに対応する1年でした。心配する区民の皆さんから保健所へ問い合わせが多く来ましたが、学校や産業振興はどうするか、PCR検査をどう実施していくか、状況が変わる中で区民の皆さんと一緒に対策を進めていきました。

渡辺 将棋界も新型コロナウイルスの影響を受けました。4～5月の対局は延期になり、経験したことのない生活でした。夏ごろから対局はできるようにりましたが、将棋の普及イベントなどは開催しづらいう状況が続いています。個人としては、最年少でタイトル戦に挑んだ藤井聡太さんとの対局では負けましたが、その後の名人戦で良い結果を残せたのが昨年の出来事としては大きいです。

準備を積み上げて勝負に勝つ

区長 渡辺さんはもう20年以上、現役のトップ棋士として活躍されていますね。

渡辺 プロの棋士は年間40～50局、週1回くらいのペースで対局があります。1週間のほとんどを準備に費やしているイメージです。とはいえ勝負は水ものなので、いくら準備しても負けることはあります。逆にこちらがあまり準備できていなくても、相手ももっと準備していなければ勝つこともあります。それに頼らずに勝てるよう、波を作らないようにしています。

区長 たしかに準備を積み上げることは大切です。私は新型コロナウイルスへの対応もそうです。

奥深さと年齢を問わず楽しめるのが将棋の魅力

区長 最近将棋の若いファンの方も増えているそうですね。

渡辺 藤井聡太さんの効果もあってか、多くの方に将棋に興味を持ってもらっています。将棋は約400年間ルールが変わっていない、9かける9のボードゲームです。一見すぐ解明できそうなのに、今もプロが競いながらよい指し手を見つけているという奥深さが魅力の一つです。AIも出てきてある程度良い手は示されますが、私も含めて模索し続けています。もう一つの魅力は年齢に関係なく、日本全国で楽しめることでしょうか。将棋は3・4歳からできると言われていて、私自身も5歳ごろから、堀切の将棋道場で指



プロフィール
渡辺 明(わたなべ あきら)
昭和59年4月23日生まれ。お花茶屋出身。15歳でプロ棋士となり中学生棋士として注目を集める。平成16年に初タイトル(竜王)を獲得後、数々のタイトル戦を制し、平成24年・令和元年に最優秀棋士賞を受賞。令和2年は自身初となる名人位を含む三冠名人・棋王・王将を獲得した。

区長 初めて指したのもそこです。

渡辺 将棋の魅力発信する場としては、解説などのいわゆる将棋ファン向けのイベントと、将棋をあまり知らない方向けのものがあります。タイトルを持つ者として、将棋で勝つことも大切ですが、広報的な役割も求められていると考えています。競馬やスポーツなど、将棋以外の自分の趣味の分野から取材や講演の依頼をいただくことも多く、違う分野の方に将棋の面白さを伝える場として、できるだけお受けするようにしています。最近はそのような分野の方を将棋の専門誌に招くこともあって、お互いの良さを伝えるような交流も進んでいます。

区長 葛飾でも、住みやすいですよ、と言っただけではなく、例えば「キャブテン」翼や「こち亀」といったキャラクターを通して葛飾を知ってもらおうという企画もしています。

※2面に続く

年頭にわたって 葛飾区長 青木克徳

明けておめでとうございませう。昨年は、新型コロナウイルス感染症の感染拡大が日常生活や社会・経済活動などのあらゆる場面に深刻な影響を与え、今現在も大変厳しい状況が続いています。区では、相談窓口の設置やPCR検査体制の拡充、緊急融資や各種給付金の支給などによる経済・生活支援など、様々な対策に取り組んできました。年末も、厳しい医療体制を守るために病院等を資金面で緊急支援したり、都の飲食店への時短要請延長を受けて、区独自の協力金上乗せ支給期間を直ちに延長したりするなど、臨機応変に対応したところです。今後も状況に応じた施策を迅速に進めます。区民・事業者の皆様には、引き続き、感染症対策へのご協力をお願いいたします。

この新年号では、昨年、悲願の名人位を獲得された将棋の渡辺明名人と対談させていただきました。さらに、オリンピックでの活躍が期待される柔道のウルフアロン選手と競泳の松元克央選手、人気YouTuberのフィッシュヤーズさんに出演していただきました。葛飾育ちの若い皆さんが郷土愛を持ちながら第一線で活躍し、夢や希望や元気を届けてくれることを、大変うれしく、誇りに思っています。

本年も、感染症対策・災害対策をはじめ、高齢者支援や子育て支援、公共交通の充実やデジタル化の推進など、さまざまな課題に全力を挙げ取り組み、いつまでも住み続けたいと思う、魅力あるまちを築いてまいります。

結びに、新しい一年が、皆様にとりまして心豊かに安心して暮らせる年となりますことを祈念いたしまして、私からの年頭のあいさつとさせていただきます。